芸術研究５　―玉川大学芸術学部研究紀要―　2013　pp. 29~38
STUDIES IN ART 5　―Bulletin of Tamagawa University, College of Arts―　2013

［演奏ノート］

日韓（釜山）親善交流のための演奏会研究報告
―ブラームス／ピアノ五重奏曲と二台ピアノのためのソナタの比較研究を中心に―

Concert Report for a Goodwill Exchange between Japan and South Korea (Pusan)
―Comparative Research of Brahms' Piano Quintet and Sonata for Two Pianos―

小佐野　圭
Kei Osano

〈抄　　録〉

本稿は2013年10月22日に開催された釜山における「日韓親善交流のための演奏会研究報告」である。日本におけるピアノデュオ協会と韓国・釜山のピアノデュオ協会は、20年前から親密な関係を維持しており、私たちはピアノデュオの日本代表として招聘を受けた。演奏会においてはプーランク、ブラームス、ベネット、そしてガーシュウィンの作品を演奏した。本文は主にブラームスのピアノ五重奏曲と二台ピアノのためのソナタを比較研究し、2つの作品の共通性と相違性を考察した。ブラームスがどのようにピアノの譜面を弦楽器に書き直したかに焦点をあて、二台ピアノによる演奏法を探った。ピアニストとしての視点から、実際にこの2つの作品を演奏する上でどのようなテクニック（演奏法）が求められるのかを探求した。具体的にはアンサンブルとしての技術的な奏法と二台ピアノならではの演奏効果を表現する奏法が必要となる。それらを克服するためにはピアノの減衰楽器である特性と弦楽器のボウイングを認識することが重要であることを明らかにした。いかに弦楽器的効果を取り入れながらピアノ表現を求めるかが鍵となる。二台ピアノ作品を演奏するピアニスト、あるいは学生達の指針となれば幸いである。

キーワード：ブラームス、室内楽、ピアノデュオ、二台ピアノのためのソナタ、ピアノ五重奏曲

Abstract

This is a report on the concert I held in Pusan, Korea on October 22, 2013 for the Japan-Korea friendship exchange. The Piano Duo Association of Japan and its counterpart in Pusan, Korea have maintained a close relationship for the past twenty years, and we were invited as the Japanese representative for the piano duo. We played works by Poulenc, Gershwin, Brahms, and Bennett.

In this report, I have mainly compared Brahms' "Piano Quintet" with the "Piano Sonata for Two Pianos," and examined the their similarities and differences. I also have discussed the playing techniques for two pianos, focusing on how he arranged piano pieces for strings.

I examined what sort of playing techniques are required when we perform these two works from a pianist's point of view. Specifically, you need to know techniques for ensembles and how to express the effects of two pianos.

In order to overcome issues of performance, I have made it clear that it is important for us to recog-

所属：玉川大学芸術学部教授
受領日　2013年11月30日

nize that these two instruments are quite different in terms of how they produce sounds; the piano has characteristics of attenuation, while on the other hand, the strings have bowing characteristics.
The point is how you express your piano performance by introducing the effects of strings.

Keywords: Brahms, Chamber Music, Sonata for Two pianos, Piano Quintet

1. はじめに

韓国の釜山ピアノデュオ協会名誉会長　諸葛　森氏から、韓日両国の文化交流の架け橋として「DUOおさの」を招聘したいとの依頼があり、日本国際ピアノデュオ協会[1)] 理事長および会長の峰村澄子氏より、正式に依頼をいただき今回の演奏会の実現に至った。国際ピアノデュオ協会と釜山ピアノデュオ協会は創立以来、緊密な関係を維持しており、初代会長、児玉邦夫･幸子夫妻による演奏会、及び会員20名の渡韓による釜山での演奏会、並びに韓国から20名の演奏家を交えて、東京での演奏会などを度々開催している。この度、筆者は日韓両国の文化交流の架け橋として演奏を受諾し、2013年10月22日、韓国、釜山において演奏を行なった。今回の釜山ピアノデュオ演奏会は二日間（10月21日と10月22日）開催され､1日目が釜山ピアノデュオ協会会員（14名）による演奏会､2日目が我々「DUOおさの」によるリサイタルという構成である。本稿は、韓国における演奏会の作品分析研究と成果発表を展開し研究報告とした。

2. 演奏会の目的

ピアノデュオ演奏会による日韓親善交流をはかること。

3. 演奏会概要および演奏の意図

3.1. 演奏会日時および演奏会名

主催者：韓国釜山ピアノデュオ協会
日時：平成25年10月22日（火）午後7：30
演奏会名：日韓（釜山）親善交流のための演奏会
会　場：釜山文化センター（中ホール）

3.2. プログラミングについて

我々は一晩のリサイタルを2つの構成に分け、前半は「暗」、後半は「明」というコントラストにした。一晩のプログラムを一つの劇的なドラマのように捉え、時間の経過の中で移り変わる感情をいかに表現するかを考えた。前半「暗」のブラームスにおいて構成感、重厚感ある演奏効果を実現させ、後半「明」は陽気で即興的な演奏効果を表現することを目的とした。

シテール島への船出　L’embarquement pour Cythère（1951）
プーランク　Poulenc, Françis（1951）
副題に二台ピアノのためのワルツーミュゼットとある。使用音域が広く、旋律に関わる音数は少ないが、ピアニスティックで優美な音楽である。シテール島とは愛と美のヴィーナスが誕生して西風ゼ

ピュロスによって運ばれたとされている伝統の島で、芸術家たちが劇や詩、絵画、映画、音楽にその題材から着想を得て作品として残している。パリのルーブル美術館にはアントワーヌ・ヴァトー（1684–1721）の「シテール島の巡礼」という絵画作品があり、ボードレール（1821–1867）は詩の中に、ドビュッシー（1862–1918）は『喜びの島』というピアノ曲を作っている。

二台ピアノのためのソナタ作品34bについてSonate for two pianos, F-minor Op. 34b

ブラームス　Brahms, Johannes（1833～1897）

この作品の原型となったのは弦楽五重奏曲である。この作品は弦楽四重奏にチェロを加えた作品で、交響曲第一番をつくった頃（1862年）に作曲した。しかし、友人たちの意見や助言によって少しずつ手を加えていった。最終的にはブラームスは弦楽五重奏を断念して、さらに補筆しながら二台ピアノのためのソナタを書く決心をして1864年2月に完成した。初演はウィーン学友協会ホールでの演奏会だった。ブラームスはカール・タウジッヒ（Karl Tausig 1841～71）を共演者に選んだ。演奏の反響は今ひとつだったようである。クララ[2] はブラームスへ（7月22日付け）次のように手紙[3] を送っている。

「この作品（二台ピアノのためのソナタ）は、おどろくほど立派で才気に満ちた組み合わせが完全に興味をそそり、どこをとっても功名です。しかしこれは、ソナタではなく花や果物を盛った器からのように、その楽想をオーケストラ全体にちりばめることができそうな作品です。あなたはそうすべきです。素晴らしい楽想の数々がピアノでは飛んでいってしまいます……」。この手紙がきっかけで彼は二台ピアノのソナタをピアノ五重奏に改作する準備に入った。つまり、はじめは弦楽五重奏曲が作曲されて、さらに二台ピアノ用に補筆され、さらに、ピアノ五重奏曲として改訂されていったということになる。

第1楽章は、典型的なソナタ形式である。ピアノソロ曲においてブラームスはソナタを3曲作曲している。二台ピアノのためのソナタは、交響曲のように長大な作品として書いている。重厚な響きと力強い高揚感はブラームスの傑作と言っても過言ではない。

4つの作品　Four piece Suite 2pianos 4hands（1974）

ベネット　Bennett, Richard Rodney（1963～2012）

第1曲	悲しみのサンバ	Ⅰ	Samba triste	Gentle and rhythmic
第2曲	カントリーブルース	Ⅱ	Country blues	Slow and lazy
第3曲	ラグタイムワルツ	Ⅲ	Ragtime waltz	Moderate waltz time
第4曲	フィナーレ	Ⅳ	Finale	Tempo di hard rock

イギリスの作曲家、ベネットが1974年に作曲したこの作品は、「2台のピアノのためのディベルティメント」の副題を持ち、指揮者、ピアニスト、作曲家として活動している同じくイギリス人のアンドレ・プレヴィンに献呈されている。

第1曲はボサノヴァ風の緩やかな、そしてリズミカルなメロディラインを持つ。第2曲はニューオリンズ風のブルースハープの音を彷彿とさせ、中間部では豊かなサウンドとなる。第3曲はスコット・ジョプリンへのオマージュと表記されている。ジョプリンはラグタイムの王者と称されるアメリカの作曲家で、ジャズの一要素ともなったラグタイムは黒人ピアニストの抜群のリズム感によって19世紀末に流行した音楽。ベネットは4分の3拍子のワルツのリズムの枠の中に8分の6拍子の音型をはめ込み、拍感の変化が楽しめる。第4曲目はハードロックのテンポで、との表記があるように、裏拍に音価の長い音符やアクセントを置いている。

ラプソディ・イン・ブルー　Rhapsody in Blue（1924）

ガーシュウィン　Gershwin, George（1898～1937）

原曲はシンフォニックジャズという音楽ジャンルを確立させた曲であり、ジャズバンドとピアノによるものだが、ファーディ・グローフェ（1892–1972）がオーケストレーションを行い、その後、ガーシュウィン自身の手により2台ピアノオリジナルとして編曲された。ピアノソロ版もある。構成は大きく3つからなり、中間部のホ長調で奏されるAndantino moderato部分は、豊かなロマンティシズムに溢れている。

3.3. 作品分析

本稿はブラームスのみ考察した。

さて、二台ピアノ（以下《DUO》と表記）とピアノ五重奏（以下《5重奏曲》と表記）との楽譜の相違を分析した。ブラームスは《DUO》の譜面を《5重奏曲》として弦楽器とピアノに書き直したのだが、《DUO》のそれぞれのパート（1st と 2nd）が、《5重奏曲》のピアノパートにどのように書かれているかを考察してみたい。ここでは、《5重奏曲》のピアノパートを中心に考え、《DUO》の譜面に振りかえって考察したものである。但し、《DUO》の譜面がまったく、そのまま《5重奏曲》のピアノソロパートに書き直されているわけではなく、ここでの考察は主になるパートがどちらなのかということを分析したものである。

なお、《5重奏曲》はG. HENLE VERLAG MUNCHEN出版社、《DUO》はC. F. PETERS出版社の楽譜を使用。小節数の記載は《5重奏曲》G. HENLE VERLAG MUNCHEN出版社の楽譜によるものである。

記入例：《5重奏曲》冒頭から17小節1拍目→《DUO》1st、という意味は、《5重奏曲》の冒頭から17小節1拍目までは、《DUO》の譜面においては、第一ピアノの譜面を記載したものである、という意味である。

第1楽章

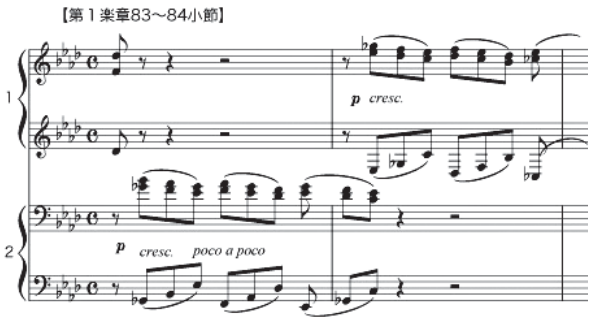
Ⅰ　Allegro non troppo

アレグロ・ノン・トロッポ　ヘ短調　4分の4拍子　ソナタ形式

《DUO》冒頭の主題3小節目1stパートと2ndパートには4拍分のスラーが1つ書かれているが、《5重奏曲》は2拍ずつ2つのスラーとなっている。《5重奏曲》4小節目は1st VnとVcには「<>」が書かれているが《DUO》1stと2ndには書かれていない。《DUO》2nd右手39小節は《5重奏曲》ではVaとVcが担当している。この箇所は《DUO》2ndは「pとsotto voce」が書かれているが、《5重奏曲》Vaは「p sotto voce espress.」Vcは「p sotto voce」と書かれている。《DUO》2nd39小節において、弦楽器をイメージした豊かな表現が必要となる。《DUO》41小節は最も演奏困難な箇所である。なぜならばブラームスは《DUO》2nd2分音符の中にクレッシェンドとディミヌエンドを書いているからである。ピアノ演奏において、「<>」は物理的に不可能である。具体的な演奏法は後で述べる。

次に「譜例1」は第1楽章において最も顕著に異なる箇所（《DUO》と《5重奏曲》との相違）を考察したい。

「譜例1」



《DUO》83小節2nd の音型が《5重奏曲》においては削除されている「譜例1」。《DUO》1st84小節の音型は《5重奏曲》83小節オクターヴ下でそのまま書かれている。《DUO》85小節2nd の音型は弦楽器として書かれている。この箇所は再現部以降245小節目でも1小節分削除されている。

次に《DUO》2nd の76小節および《DUO》2nd の80小節の2拍目と3拍目のベース音は、《5重奏曲》は削除されている。

次に23小節から34小節まで（経過部）を考察してみたい。《5重奏曲》の右手は、《DUO》1st左手である。23小節《DUO》1st、右手と27小節《DUO》2nd の右手はゆるやかな表情を伴う旋律である。また次に同じ旋律を《DUO》2nd が奏する。交互に対話のようにメロディを表現することは、二台ピアノ演奏においてよく行なう手法である。《5重奏曲》を考察してみると《DUO》の旋律は1st Vnが演奏している。ブラームスは、この旋律の表現力をピアノから、弦楽器に変えることで、表現性の豊かさを加えていると言える。23小節には（p dolece espress.）と書かれているが、演奏者は楽譜に記載されているDynamic（ディナーミク）、Artikulation（アルティクラツィオーン）を忠実に守らなければならないだろう。なお、再現部以降、184小節から190小節までも、以上の点は同じことが言える。208小節から210小節の2拍目までは《5重奏曲》ピアノは、削除されていて弦楽器だけで演奏される。

次に261小節から10小節間を考察してみたい。この箇所はブラームスが改善した跡が発見できる。《5重奏曲》ピアノソロはベース音「F」がオクターブで演奏され、他は弦楽器が演奏する。この箇所は弦楽四重奏として書き直したと言って良いだろう。《5重奏曲》261小節から1st Vnが演奏して2拍遅れて、第一楽章第一主題モチーフを「G-A」を演奏する。ひき続き、Vcおよび1st Vnが主要モチーフをずらして演奏する。この方法は対位法的な構成を造ることで、弦楽器の特色であるボウイングの特長をブラームスが引き出したものである。まさに、この箇所はクララが「素晴らしい楽想だが、ピアノでは飛んでいってしまう」と述べた箇所であり、ブラームスが《DUO》から《5重奏曲》へ手を施した理由がここにも存在する。

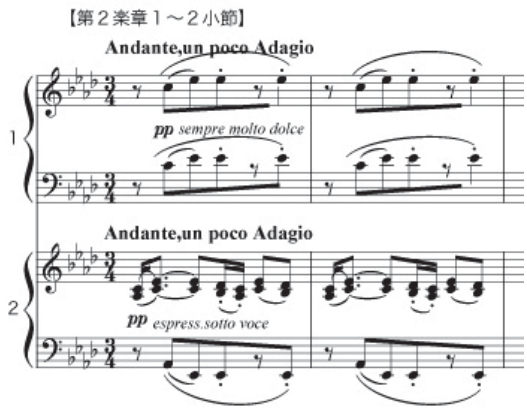
《提示部》
《5重奏曲》冒頭から17小節1拍目→《DUO》1st　《5重奏曲》17小節2拍目から22小節→《DUO》2nd　《5重奏曲》34小節4拍裏拍→《DUO》1st　《5重奏曲》63小節→《DUO》2nd　《5重奏曲》66小節→《DUO》1st　《5重奏曲》74小節→《DUO》2nd　《5重奏曲》86小節→《DUO》1st　《5重奏曲》87小節2拍→《DUO》2nd
《展開部》
《5重奏曲》93小節→《DUO》1st　《5重奏曲》122小節→《DUO》2nd　《5重奏曲》128小節→《DUO》1st　《5重奏曲》136小節4拍裏拍→《DUO》2nd　《5重奏曲》137小節2拍裏拍→《DUO》1st
《再現部》
《5重奏曲》166小節4拍裏拍→《DUO》2nd　《5重奏曲》178小節2拍裏拍→《DUO》1st　《5重奏曲》191小節2拍裏拍→《DUO》2nd　《5重奏曲》210小節3拍裏拍→《DUO》1st　《5重奏曲》218小節→《DUO》2nd

第2楽章

Ⅱ　Andante, un poco Adagio

アンダンテ・ウン・ポーコ・アダージョ　変イ長調　4分の3拍子　3部形式

「譜例2」



第2楽章は三部形式。第1楽章の激しさと比べ、第2楽章は穏やかで、シューベルト風な表情である。ブラームスは、2つの性格の対比を表現したものと言えよう。

42小節《DUO》2nd右手が《5重奏曲》においては弦楽器が担当することはあるが、顕著な変更はみられない。《5重奏曲》ピアノソロは《DUO》2ndをそのまま取り入れたものと考えて良い。

《5重奏曲》冒頭から30小節まで→《DUO》2nd　《5重奏曲》31小節から32小節まで→《DUO》1st　《5重奏曲》33小節と34小節→《DUO》2nd左部分　《5重奏曲》35小節から126小節（最後）まで→2nd

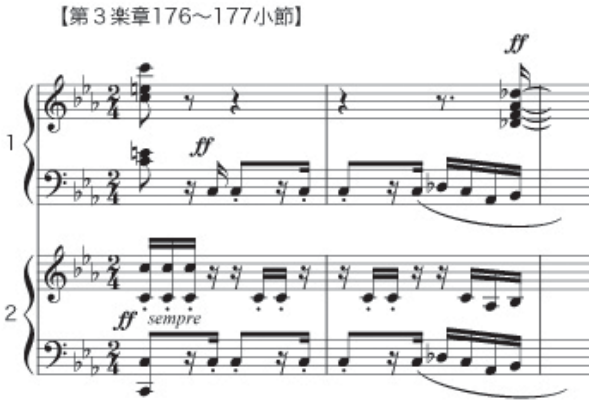
第3楽章

Ⅲ　Scherzo: Allegro

スケルツオ　アレグロ　ハ短調　8分の6拍子　3部形式

第3楽章は前半部分（1小節～22小節まで）を考察する。冒頭は《DUO》1st、は低音の「C」を12小節間継続的に演奏する。5小節目《DUO》1st、右手が《5重奏曲》ピアノソロで開始する。13小節《DUO》2nd、は《5重奏曲》における弦楽器である。この弦楽器の八分音符の刻みはきわめて打楽器的でもあるので、ピアノ演奏効果は高い。

「譜例3」



176小節と177小節の《DUO》1st、の左手パート「譜例3」は《5重奏曲》ピアノソロにおいて削除されている。実は二台ピアノにおいて、この《DUO》》1stパートと《DUO》2nd、パートは演奏が技術的に困難である。打楽器的に合わせることは重要ではあるが、《DUO》2nd、パートがリズムを刻んでいるため《DUO》1st、の左手パートは削除しても良いのではないだろうか。トリオの部分194小節は第1楽章のメインテーマのモチーフがC-durで「G-C-E-D」登場する。《5重奏曲》においては、210小節目から弦楽器（1st Vn）が主旋律を歌う。ここにも、書き直した跡が伺える。

《5重奏曲》22小節2拍→《DUO》1st　《5重奏曲》57小節→2nd　《5重奏曲》88小節→1st

《5重奏曲》100小節→2nd　《5重奏曲》124小節→1st　《5重奏曲》143小節→2nd

《5重奏曲》158小節→1st　《5重奏曲》242小節→2nd

『トリオ』

194小節から225小節まで→《DUO》1st　226小節→《DUO》2nd

第4楽章

Ⅳ　Finale: Poco sostenuto・Allegro non troppo

フィナーレ　ポーコ・ソステヌート・アレグロ・ノン・トロッポ　ヘ短調　助奏付きソナタ形式

前半から12小節までは、《5重奏曲》において、弦楽器主体で演奏される。《5重奏曲》ピアノパートは3小節から5小節1拍までと11小節と12小節を演奏する。161小節に表記されている「Tempo I」は《DUO》楽譜には記載されていない。ここは「Tempo I」を付記すべきである。352小節2拍から356小節の2拍まで《5重奏曲》ピアノパートは音が削除され、弦楽器のみで演奏される。

《5重奏曲》13小節から41小節→《DUO》2nd　《5重奏曲》42小節→《DUO》1st　《5重奏曲》92小節2拍裏拍→《DUO》2nd　《5重奏曲》137小節→1st　《5重奏曲》161小節→2nd

《5重奏曲》184小節→1st　《5重奏曲》191小節2拍→2nd　《5重奏曲》250小節→1st

《5重奏曲》264小節→2nd　《5重奏曲》283小節→1st　《5重奏曲》295小節→2nd

《5重奏曲》321小節1st　《5重奏曲》372小節2nd　《5重奏曲》403小節→1st

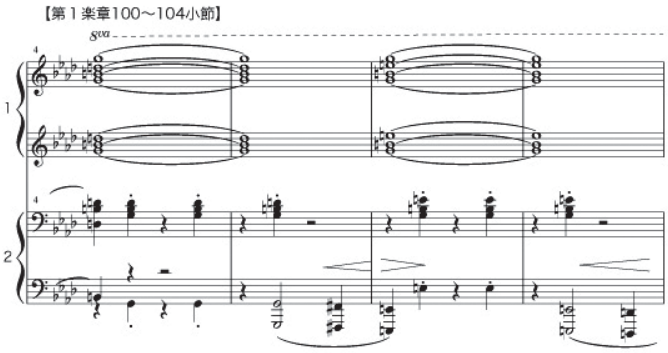
《5重奏曲》439小節→2nd　《5重奏曲》467小節→1st　《5重奏曲》491小節492小節→2nd

まとめ

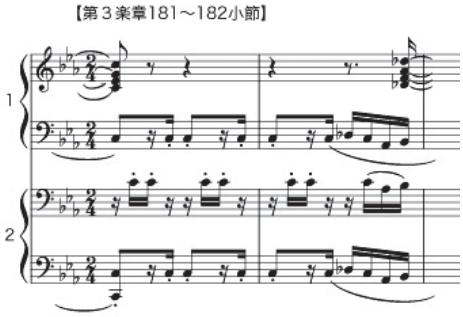
第1楽章、41小節と42小節2ndの二分音符における演奏法は次のように提案する。41小節目3拍目の二分音符を打鍵後、手はすぐ鍵盤から離しダンパーペダルを利用してdim. しながら42小節1拍目二分音符「pp」に持続していく奏法を提案したい。この場合、ピアノの楽器によってペダリングの堅さが多種多様なので十分、注意したい。また41小節と42小節の《DUO》1stの「<>」は適切に演奏しなければならない。音量のバランス面で言えば、《DUO》2ndより1stを表現の中心におくことで、2ndの物理的な減衰効果を補うことができると考える。

100小節から104小節まで《DUO》1stは全音符である「譜例4」。この箇所は弦楽器で演奏する場合、音の持続性が保たれるが、ピアノは減衰楽器のために、この箇所の演奏は実に困難をきわめる。全音符を演奏しても、その音を持続させることは物理的に困難である。この箇所はトレモロ奏法を用いることによって、少しでも持続効果を表現することを提案する。

「譜例4」



「譜例5」



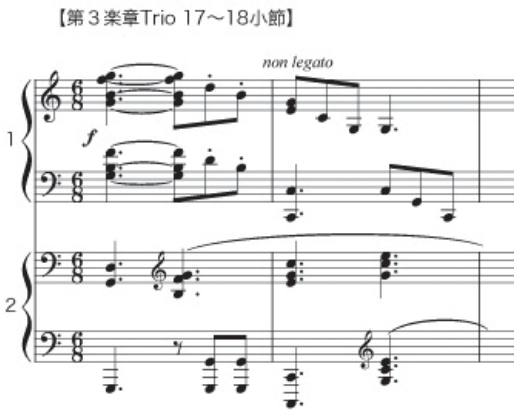
第3楽章は前述した176小節と178小節「譜例3」と同様に、181小節と182小節「譜例5」は《DUO》2ndパートがリズムを刻んでいるため《DUO》1stパートの左手は削除して演奏するのが良いであろう。

第3楽章は二台ピアノによる演奏はきわめてその効果は高い作品だと言える。スケルツオは、歯切れよく、ピアノの減衰楽器の特徴を活かした作品に仕上がっており、ピアノの打楽器的な特徴を引き出した作品と言える。二人のピアニストの技巧が発揮できる可能性が高い作品である。この楽章に関

しては、五重奏と同様に二台ピアノも充実した演奏ができるのではないだろうか。

第3楽章、トリオ194小節はピアノが主導権を握っていて主旋律を歌うが209小節アウフタクト「譜例6」から《5重奏曲》は弦楽器が主旋律を歌う。このピアノと弦楽器の音色における多彩な表現力は《5重奏曲》の真骨頂と言えるだろう。この箇所にも書き換えた大きな効果が伺えるのである。

「譜例6」



第4楽章は93小節と254小節の箇所（un pochettino più）はテンポが若干、アップする。この部分はブラームスが弦楽器として手直しした大きな変更点と言って良いだろう。弦楽器の16分音符と付点8分音符が旋律の重心となる。このモチーフは第2楽章のピアノパートのモチーフがここで演奏される。ピアノパートを弦楽器に書き換えることが基本となっている。

以上、第3楽章のように打楽器的な奏法が必要な箇所において、《DUO》は、きわめてピアノ演奏効果の高い素晴らしい作品に仕上がっている。ブラームスがピアノの特性を十分意識し作曲したことが伺える。一方、弦楽器をイメージして書き換えた箇所においてピアニストは、弦楽器的効果を引き出すような豊かな奏法が求められるであろう。全音符や二分音符等に「<>」が書かれている場合、ピアノの物理的現象（打鍵後、音が減衰する特性）を活かして、「音を持続させるテクニック」は不可欠であろう。具体的な奏法の一つとして長い音を打鍵した後の音の音量を減少させることで、音の持続性を保つことが可能となるのである。こういう箇所において適切なディナーミクとペダリングを利用することが重要であろう。

4. 演奏会成果

下記は釜山ピアノデュオ協会会長　崔　允僖氏から頂戴したメッセージを記載する。

デュオおさの　釜山演奏会に際して

釜山デュオ協会に多大なる影響を与えて下さっている日本国際ピアノデュオ協会とのご縁で、この度〈デュオおさの〉のお二人を招聘出来ましたことを心から嬉しく思っております。

〈デュオおさの〉の、ともに呼吸するまさに息の合った演奏は、統一感と、調和する響きに満ちており、デュオの規範となるべく姿でした。また、アンサンブルでは楽譜を置いて演奏するスタイルが多い中、お二人は暗譜で演奏され、そのスタイルは、釜山デュオ協会の会員たちにとっても一石を投じるものでした。単純に考えても、ソロ演奏の倍の楽譜を理解し暗譜する姿からは、プロフェッショナルな精神が伝わりました。

今後もこのような素晴らしい演奏者を通して我々韓国の演奏者に良い影響が及ぶことを望んでおります。

さらに、このような演奏活動が韓日両国の交流の改善に役立てられていくことを心より願っております。

感謝の気持ちをこめて。

2013年11月20日
釜山デュオ協会　会長

2013년 11월 20일

부산피아노듀오협회 회장 최 윤 희
崔 允 僖

謝辞

最後に日韓（釜山）親善交流のための演奏会のために多大な支援を下さった韓国の釜山ピアノデュオ協会名誉会長　諸葛　森氏、現・釜山デュオ協会会長　崔　允僖氏、日本国際ピアノデュオ協会会長の峰村澄子氏、同事務局長の峰村信一氏には心より感謝申し上げたい。また、細やかなご配慮とともに通訳をして下さった金　乗基氏、演奏会終了後のレセプションにおいて心温まるメッセージを頂戴した釜山ピアノデュオ協会の皆様にも御礼を申し上げたい。日韓の騒がしい政治的な背景とは別に、ともに芸術を磨き合う仲間同士として、親交を温められる良い機会になったことは大変意義深く、今後も芸術分野では友好的な親交を深めるべく使命としたい。

"오사노 선생님 부부의 연주를 듣고"

부산 피아노 듀오 협회의 창단에 많은 영향을 끼친 일본 국제 피아노 듀오 협회와의 인연으로 인해 추천받은 두 분을 초청하게 되어 기쁘게 생각합니다.

국외적으로 잘 알려지지 않은 분들이어서 처음에는 약간의 우려는 있었지만, 연주회를 개최하여 듣고 다시 생각하게 되었습니다.

진정 피아노 듀오가 무엇인지, 함께 호흡하는 음악의 통일감과 조화된 모습은 음악적이고 테크닉적인 면과 더불어 듀오의 교과서적인 모습을 보는 듯 했습니다.
더구나, 솔로도 아닌데 듀오를 암보하여 연주하는 프로의 정신과 자세는 모든 연주자들에게 귀감이 되리라 생각합니다.

앞으로 이런 연주들을 통해서 서로에게 학문적으로 뿐만 아니라, 더 나아가 한일관계의 개선에도 좋은 영향력을 미치는 교류의 계기가 되었으면 합니다.

2013년 11월 20일

부산피아노듀오협회 회장 최 윤 희
崔 允 僖

釜山デュオ協会　会長　崔　允僖メッセージ

듀오 오사노(Duo Osano) 초청(招請) 연주회를 축하하며

유례없이 무더웠던 더위도 가시고 청명한 가을 하늘을 볼 수 있게 된 좋은 계절을 맞이하여 이번에 전일본(全日本) 피아노 지도자협회회원이며, 그 콘페티션 심사위원, 일본 국제 피아노듀오협회 회원인 오사노 케이, 오사노 미호 부부 교수를 초청하여 한일친선(韓日親善)을 위한 연주회를 갖게 된 것을 매우 뜻 깊은 일로서 기쁘게 생각합니다.

돌이켜 보면, 1990년에 부산 피아노 듀오협회를 창설하면서 그해 11월에 일본 쿠니다치 음대 교수인 코다마쿠니오 부부를 초청하여 연주회를 가졌으며, 1992년 1월에 일본 동경에서 열린 제1회 국제 피아노 듀오 협회 콩쿠르에 부산 팀이 참가한 이후 거의 빠짐없이 매회 참가해 왔으며, 그에 앞서 1991년 10월에는 한일 피아니스트 40명(일본 20명, 부산 20명)이 20대의 피아노에 2명씩 앉아서 베토벤 교향곡 제 9번 제4악장 합창 부분을 200명의 합창단을 동원하여 부산문화회관 대강당에서 연주하여 대성황을 이루었던 역사가 있었습니다.

그런 의미에서 이번 듀오 오사노 부부의 초청연주도 그 연장선상에서 의미를 찾을 수 있을 것 같습니다. 이 분들이 연주한 CD 〈La Vals〉, 〈Rhapsody in Blue〉는 모두 높은 평가를 받고 있다고 합니다.

이번 연주에서 선보일 플랑(Poulenc)의 〈시페르에의 출항〉과 브람스의 〈2대 피아노를 위한 소나타〉, 그리고 벤넷뜨(Bennett)의 〈4개의 피스 모음곡(Piece Suit)〉, 그리고 마지막에 연주되는 거슈웬(Gershwin)의 〈Rhapsody in Blue〉에 큰 기대를 가져도 될 것 같습니다.

우리 피아노 듀오협회 회원은 물론, 많은 음악인과 음악 애호가 여러분의 열렬한 성원을 기대해 마지않는 바입니다.

2013년 10월 21일
전 부산대학교수 제 갈 삼

釜山ピアノデュオ協会名誉会長　諸葛　森氏
案内文　Piano DUO Concert Program より抜粋

「釜山文化センター外観」

「釜山文化センタ中ホール内」

「釜山ピアノデュオ協会先生方と共に」

注

1) 1989年5月児玉邦夫（国立音楽大学教授）・児玉幸子（国立音楽大学教授）により「ピアノデュオ協会」として設立された。小林峡介（大阪音楽大学教授）、久保浩（フェリス女学院大学教授）らを理事とし、中田喜直（作曲家）、安川加寿子（東京藝術大学教授、教育連盟会長）らを顧問とする。ピアノデュオ作品を中心に取りあげ、コンクールやフェスティバル等を開催する。当協会が世界各国のピアノデュオ演奏家にピアノデュオ協会の設立を促し、イギリス、ブラジル、ロシア、ドイツ、韓国ソウル、韓国釜山など、7協会が設立された。これらの7協会は当協会を中心に、その理念と志を同一とし、活動を開始する。 当協会は、ほぼ隔年に作曲と演奏の両コンクールを実施し、多くの作曲家と演奏家を世に送り出して、音楽界で他に類を見ない特出した音楽団体となっている。現在、会長は峰村澄子、事務局長は峰村信一。（http://ipda-pianoduo.com/duo-activity.html　国際ピアノデュオ協会ホームページより抜粋2012年2月16日現在）

2) クララ・ヨゼフィーネ・シューマン（Clara Josephine Wieck-Schumann1819_1896）
19世紀に活躍したドイツの女流ピアニストでロベルト・シューマンの妻

3) 作曲家別名名曲解説ライブラリー『ブラームス』（音楽之友社、1994）187頁参照

参考文献

作曲家別名曲解説ライブラリー『ブラームス』音楽之友社、1994年

村澤由利子「ブラームス作曲ピアノ五重奏曲ヘ短調作品34についての考察：2台ピアノのためのソナタ作品34bとの比較を視点として」『鳴門教育大学研究紀要』、2006年